

# 1.河川及び流域の概要

## 1.1 流域の概要

九頭竜川水系は、その源を福井、岐阜の県境油坂峠(標高717m)に発し、北西に流れ、石徹白川、打波川等を合わせ、さらに真名川等を合わせ、勝山市を経て福井平野に出て、日野川を合わせ北流し、三国町において日本海に注ぐ、幹川流路延長116km、流域面積2,930km<sup>2</sup>の一級河川である。

その流域は、福井、岐阜両県にまたがり、福井市をはじめとする5市17町3村からなり、福井県北部における社会、経済、文化の基盤となっている。

流域内人口は約67万人であり、福井県人口の約80%を占めている。流域全体の約37%にあたる約25万人が福井市に集積し、次いで日野川流域の武生市・鯖江市に約14万人、下流部の坂井郡6町に約12万人が生活している。

流域の形状は、加越山地、越美山地、越前中央山地、丹生山地に東・西・南の三方を囲まれ、北方に河口が開けている。流域は、九頭竜川本川、日野川、足羽川流域の3つに区分され、九頭竜川本川流域は全流域の中央部および東部を占め、日野川流域は西部と南部、足羽川流域はその中間部を流域としている。

流域の地質は、北部と南部で大きな相違が見られ、北部には飛騨変麻岩を基盤としてその上に手取層群、足羽層群が被覆しているのに対して、南部は主として丹波層群が分布している。

流域内の年間総雨量は海岸部で2,000～2,200mm、山間部で2,600～3,000mmとなっており、全国平均でみると多雨多雪地帯に属している。



図1.1 九頭竜川流域図

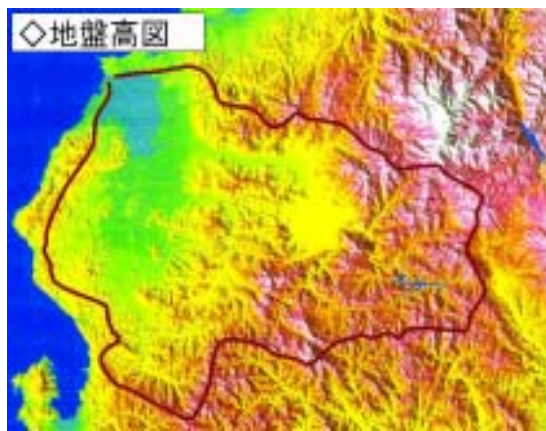


図1.2 地盤高図

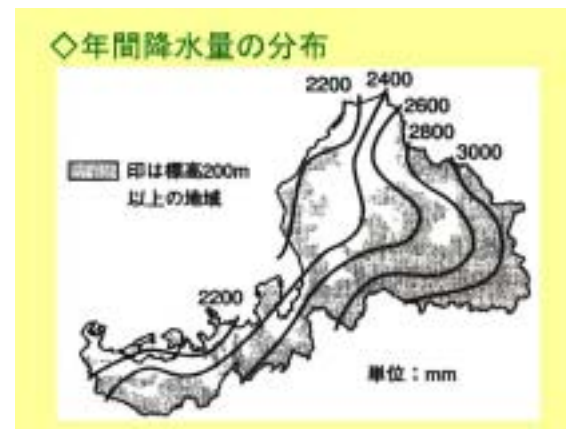


図1.3 年間降水量分布図

